

# 圧倒的な合格率を誇る英検アプリ



遠藤尚範代表取締役

都内で13教室を展開する株式会社メイツは、2013年よりiPad用学習アプリの開発に着手し、2017年9月に「教育機関向け英検®アプリ」をリリースした。とにかく生徒たちに成功体験を積みせようと、英検直前対策に特化しているのがこのアプリの特徴だ。

対象は5級〜2級までで、現在は4技能のうち英検1次試験(リーディングとリスニングとライティング)

の3技能対策に対応している。自動採点機能がついているため生徒たちは自分のペースでどんどん進められるほか、指導する側も採点業務に追われることはない。「先生方の能力引き上げを目指しているので、生徒にアプリを渡すだけの指導は想定していない」と語るのは、メイツ代表の遠藤尚範氏。先生たちはファシリテーターとして、生徒のやる気を存分に引き出してほしいと考えている。実際、このアプリを導入している学習塾では新人の先生が生徒とのコミュニケーションを促進するため、英検アプリを使っているという。

使い方は多彩で、例えば、講師1人で学年や級がバラバラの生徒6人に対して英検アプリ用いて指導するといったことも可能。もちろん、できるだけたくさん生徒を集めて使ったほうが、生産性が高まるのは言うまでもないだろう。

よいものができるだけ安価に提供したかったため、初期費用は無料だが、アダプティブ機能を装備。一人ひとりの苦手単語・苦手類題が出題され、生徒は自分にとって最適な問題を解くことができる。「高価なシステムを採用しなくても、十分に効果の高いものはできている」と遠藤氏は話す。

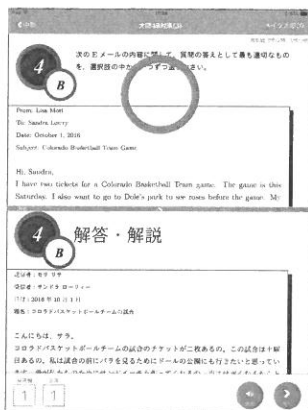
実際にこのアプリを使用

して学ぶ生徒たちの成績は高く、なんと86・7%が英検3級に合格している。アンケート結果もよく、生徒の97・1%が「英検対策に役立った」と回答しているほか、先生は100%が「次回も利用したい」と答えている。

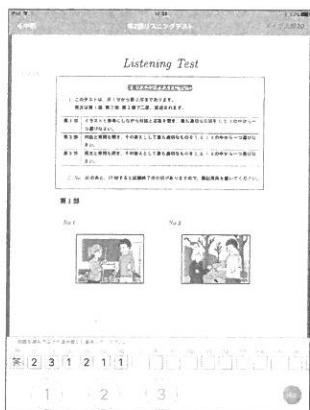
英検の試験がある度に毎回コンテツを見直すなどにアップデートに抜かりがなく、今春からはライティング機能も装備した。まずは単語と熟語を覚え、点数が取れる英作文の型を身に着けるために穴埋め問題に挑戦。そしてゆ

くゆくは、日本語だけを見て英文が書けるようになることを目指す。

来年にはスピーキング機能も搭載すべく準備を進めているほか、AIを搭載してアップデートすることも検討中だ。さらに英語・数学・理科・社会の夏期講習用アプリを開発中など、今後も多彩な広がり計画している。



大問対策ではわかりやすい解説が提示されるため、先生が指導する場面はほぼない



リスニング対策もアプリ内で完結する